

指導と評価 — その一体化の実際

中村貴美子

(世田谷区立梅丘中学校)

1. 指導と評価の一体化の具体的実践

今次改訂の学習指導要領では、履修時数も週4時間の復活がなされた。言語活動指導事項は各技能各5項目となり、「各技能の統合的な活用」「4技能の総合的な育成」が強調され、受信と発信が含まれているものがある。しかしながら、指導要録の評価の観点は従来の観点が踏襲されていることから、生徒

に課した言語活動をどの観点で評価するかは重点の置き方によって定まる。下表は試みに本誌特別増刊第1号から3号までの特集タイトルとの関連からこれを整理してみたものである。次頁では生徒の学習の励みとなるような評価の本校英語科の実践例を紹介した。

テーマ 観点	自ら学ぶ力を育てる活動	他とかかわる力を育てる活動	ことばを使う力を育てる活動
コミュニケーションへの 関心・意欲・ 態度	<聞・オ>まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る。	<聞・ウ>質問や依頼などを聞いて適切に応じる。 <聞・エ>話し手に聞き返すなどして、内容を確認しながら理解する。	<話・エ>つなぎ言葉を用いるなどの色々な工夫をして話を続ける。 (Let's chat in English!)
外国語表現 の能力	<話・イ>自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝える。 <書・オ>自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く。	<話・ウ>聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりする。 <書・ウ>聞いたり読んだりしたことなどについて、メモを取ったり、感想・賛否やその理由を書いたりする。 (教科書本文の理解を深めよう)	<話・オ>与えられたテーマについて簡単なスピーチをする。 (英語でスピーチしよう!) <書・エ>身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書く。
外国語理解 の能力	<聞・イ>自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取る。 <読・ウ>物語のあらすじや説明文などを正確に読み取る。	<読・エ>伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる。 <読・オ>話の内容や書き手の意見などに対して、感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる。	<読・イ>書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読する。
言語や文化 についての 知識・理解	<聞・ア>強勢・イントネーション・区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取る。 <読・ア>文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく読む。	<書・ア>文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書く。 <話・ア>強勢・イントネーション・区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音する。	<書・イ>語と語のつながりなどに注意して正しく文を書く。

※注 言語活動指導事項の引用では、「…こと。」の「こと。」を省略した表記にしてある。

2. Let's chat in English!

本校では、この活動では何とか英語でおしゃべりを続けようとするコミュニケーションへの関心・意欲・態度を評価する。そこで、① No Japanese!!、② Eye contact、③ つなぎ言葉を用いて終了の合図まで会話を継続できたか、の3項目についてABCDの自己評価をさせている。第1回目の評価は低めだが、最終回には評価が上っている生徒が多い。回を重ねるごとに慣れてきて英語がスムーズに出てくるようになったことを実感した生徒の自己評価が向上していくのは教師にとっても励みとなる。

◎生徒の自己評価カード(例は3年生。90秒 chat)

Let's chat in English!		
～英語でおしゃべりしよう!～		
() round / / / / Class () No () Name		
Day & Date:	Partner:	Topic:
1 Self-Evaluation (自己評価) ①No Japanese!! A・B・C・D ②Eye contact : A・B・C・D ③つなぎ言葉を用いて話を終了の合図まで継続できた A・B・C・D		
Day & Date:	Partner:	Topic:
2 Self-Evaluation (自己評価) ①No Japanese!! A・B・C・D ②Eye contact : A・B・C・D ③つなぎ言葉を用いて話を終了の合図まで継続できた A・B・C・D		
Day & Date:	Partner:	Topic:
3 Self-Evaluation (自己評価) ①No Japanese!! A・B・C・D ②Eye contact : A・B・C・D ③つなぎ言葉を用いて話を終了の合図まで継続できた A・B・C・D		
Day & Date:	Partner:	Topic:
4 Self-Evaluation (自己評価) ①No Japanese!! A・B・C・D ②Eye contact : A・B・C・D ③つなぎ言葉を用いて話を終了の合図まで継続できた A・B・C・D		
Day & Date:	Partner:	Topic:
5 Self-Evaluation (自己評価) ①No Japanese!! A・B・C・D ②Eye contact : A・B・C・D ③つなぎ言葉を用いて話を終了の合図まで継続できた A・B・C・D		

*最終回の会話で、相手からもらった情報を英文で書いてみよう!

(Excellent・Very Good・OK)

*chatをやってみた感想を書いてみよう! (できれば英語で書いてみよう!)

継続的に自己評価をさせ、チャットの一部を記録させることが、『次回も充実した English Chat をしたい』『次はこんなトピックで話してみたい』という生徒の意欲の向上につながっている。教師は、記録→6点、相手からもらった情報→2点、感想→2点の計10点満点で評価している。評価カードの裏面には、生徒が沈黙で時間を過ごさないように、①話をつなぐ: Well, (ええと,) /Let me see. (うーん→考えている時) /So... (つまり…), ②あいづちを打つ: Really? (えっ! ホント?) /Oh, I see. (なるほど) /I've got it. (そうか, わかった) /Right. そのとおりです。/Is it? (あ, そうなの?), ③聞き返す: Pictures? (聞き返したいことばだけを取り上

げる) /Pardon?, Excuse me? (もう一度言ってもらいたい時) /For example? (例えば?) /How about ~? (~はどうですか?) /What does that mean? (それはどういう意味?) /It means ~. (...という意味です), ④驚きや喜びを伝える: Wow! (うわー!)/Great!(すばらしい)/How exciting?(へえ, すごい!)/That's (That) sounds interesting. (面白いね)などの表現を示してある。

3. 英語でスピーチしよう!

評価の観点と評価基準を事前に生徒に知らせ、ALTとともに評価している。評価基準はそれぞれの観点について、SA(10点)/A+(9点)/A(8点)/B(7点)/B-(5点)/C(3点)としている。よいスピーチは内容だけでなくパフォーマンスも重要な要素であることを伝え、英語が得意でない生徒にもチャンスであることを伝えている。観点は、以下の3項目。

① Content (内容面) ⇒ Interesting Topic (おもしろいトピックの選択) /Good Organization (よい構成でわかりやすい) /Interesting Personal Experience (興味深い自身の体験談, 意見) /Impressive Closing (印象的なしめくくり) を総合的に評価する。② Prosody (音声面) ⇒ Good Rhythm (リズムのある話し方) /Good Tempo and Volume of voice (話す速さと声の大きさ) を総合的に評価する。③ Performance (態度面) ⇒ Eye-contact/Good Posture and Gesture (よい姿勢とジェスチャー) /Memorization (内容の暗記) を総合的に評価する。

(参考資料: 株式会社 mpi スピーチナビゲーター)

4. 教科書本文の理解を深めよう

教科書本文の内容理解では単に情報を読み取るだけではなく、その内容を評価したり活用したりすることも学習させたい。そこで、読む・書くを関連させ、次の手順で書かせる。①教師が指定した教科書本文から一番印象に残った英文を The sentence that I choze is の後に書かせる。②その英文を選んだ理由や感想を It's because の後に書かせる。③自分の意見を I think (don't think) の後に書かせる。①は2点、②は4点、③は4点の計10点満点で評価する。